

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 令和3年度 岐阜県立坂下高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和3年10月26日(火) 13:00～15:00
- 3 開催場所 坂下高等学校 フィットネスルーム
- 4 参加者

会長	氷室 茂	本校活性化協議会会長
副会長	吉村 俊廣	やさか観光協会会長
委員	加藤 文明	坂下まちづくり協議会会長
	村田 純一	坂下公民館長
	尾石 光正	坂下中学校長
	竹入 康治	坂下小学校長
	山内 尚子	同窓会会長(御欠席)
	嶋倉 陽子	中津川市社会福祉協議会地域福祉課長
	桂川 容子	一般社会法人ロカテナ会員(charm mates 代表)
	吉村千恵子	保護者代表
オブザーバー	森 益基	岐阜県議会議員
	成瀬 博明	中津川商工会議所 専務理事(御欠席)
	岩久 義和	中津川市教育長(代理人出席)
	伊藤 恵之	中津川市定住推進部長(代理人出席)
	原田 真佑	文部科学省 初等中等教育局参事官(高等学校担当) 付 中高一貫教育支援係長
	升谷 英子	文部科学省 初等中等教育局参事官(高等学校担当) 付 中高一貫教育支援係
	菅井 修	岐阜県教育委員会 教育総務課教育企画第二係課長 補佐
	近藤 健次	岐阜県教育委員会 教育総務課教育企画第二係課 長補佐
学校職員	中村 浩一	校長
	田並 千穂	教頭
	渡辺 英之	事務長
	板津 裕也	教務主任
	中田 和寿	生徒指導部長
	林 裕子	進路指導部長
	林 尚志	地域連携担当

## 5 会議の概要（協議事項）

- (1) 学校評価アンケート結果、スクール・ポリシー（案）、デュアルシステム等の説明
- (2) 地元地域との組織的な連携について
- (3) 学校運営全般に関する意見交換

意見1：道の駅「きりら」での情報発信コーナーの運営に坂下高校が参画できないか。観光マップ作り、生徒作品の展示、観光案内やリバーフロント公園での野点など、坂下の魅力を観光客に伝える方法を、地域と一緒に考えていけるとよい。

意見2：中高の連携にどのように地域が関わっていけるかを考えていけるとよい。

意見3：一旦都会に出ても、いずれふるさとに戻って活躍する子どもを育てたい。そのためには地域の温かさに触れながら成長する必要がある。坂下高校は生徒がよい環境で学習ができています。地域を巻き込んだカリキュラム作りに何かの形で協力したい。

意見4：授業参観で福祉科が実践的な学習をしていることが伝わってきた。18歳で成人になることも踏まえ、高校卒業後すぐに社会で通用する人材育成が求められる。中学校でもコミュニティスクールを進めていく上で、そのあり方を検討している。地域と学校の協同学習について考えていきたい。

意見5：私自身、子どもたちに地元で根付いてほしいと希望している。人との関わりの中で、温かみを感じる経験や楽しい経験を積み重ねる事が大切である。

意見6：福祉科等、設備がすばらしく、授業内容も実践的で感心した。ぜひ多くの生徒に入学してほしい。地元との連携はとても大切なので、もっと範囲を広くいろいろな所との連携を考えるとよい。

意見7：コロナ禍で活動が狭められたが、坂下高校の生徒といくつかのボランティア活動ができた。その成果が見えると「また参加したい」と思えるので、小さなことを少しずつでも重ねて、地域活動に関心をもつきっかけとしたい。

意見8：授業参観をして、福祉科の生徒さんの声かけや意見交換がすばらしかった。ICTも有効に使われている。自分も福祉の現場で働いているが、このように介護職の人材を養成してもらっているとわかり嬉しかった。

### (4) オブザーバー等からの提言

意見1：坂下高校のこれまでの変遷を見てきた。地元地域の人たちにとって、坂下高校は空気のような当たり前の存在になっているのではないか。そのような意識を変えて、なくてはならない地域の学校として残していく必要がある。本日もいろいろな提案があったが、できることは全部試してみればよい。地域の人が坂下高校の存続の大切さを意識するよう、働きかけていきたい。

意見2：以前、坂下高校生と地域との会議に出席した際、生徒が「中学時代と比べて高校ではやりがいを見つけられて楽しい」と話したことが思い出された。学校評価アンケートの評価も高く、生徒たちの可能性を开花させようとする姿勢がみられる。デュアルシステムにも今後注目したいし、介護福祉士支援事業についても中学校に発信したい。

意見3：自分の地域の良さに気づき、若者が地元で定着するようにしていきたい。地元の自慢ができる子どもを育てることが重要である。そのためにも来年度からの地域探究科と連携を考えていきたい。

意見4：デュアルシステムについて、地元商工会としても素晴らしい取組だと考えている。複数の就業体験をしながら勤労の意味を考え、自分の進路選択に役立ててほしい。就業場所の協力を得ながら準備を進めていただき、キャリア教育のよい機会としてほしい。

意見5：探究的な学びや、地域に根付いた学びが進められており、その点で国の方針と合っている。スクール・ポリシーを地域と一緒に考えていけることはよい。地域探究科の取組には今後注目していきたい。

意見6：高校の魅力化、活性化について、県をあげて取り組んでいる。スクール・ポリシーを各学校で考えたり、坂下高校の新しい学科である地域探究科設置をしたりするのもその一環である。平成元年から比べると、中学3年生の生徒数は半減しており、全県的にも生徒募集が課題となっている。魅力ある学校づくりについては、今後も課題である。

## 6 会議のまとめ

- (1) 「スクール・ポリシー」については、今後原案について意見を集約し、第3回学校運営協議会を経て策定することを確認した。
- (2) 坂下高校が地域と連携することの重要性を、参加者全員で共有できた。具体的な連携の提案も出され、来年度から始まる「地域探究科」の教育活動にも絡め、それぞれの立場で地域連携に協力していただける前向きな意見が得られた。学校としても地域で活躍する人材の育成に、さらに意欲的に取り組んでいきたい。